

FT-991 遠隔操作アプリ

RFP991

操作マニュアル

2017年1月30日

JH4ADK

難波 秀文

# 目次

1. はじめに.....	4
1.1 特徴.....	4
1.2 できないこと.....	5
1.2.1 バンドスコープ機能.....	5
1.2.2 音声信号の入出力.....	5
1.2.3 その他.....	5
1.3 用語の説明.....	5
1.3.1 ボタン.....	6
1.3.2 テキストボックス.....	6
1.3.3 コンボボックス.....	6
1.3.4 数値アップダウンコントロール.....	6
1.3.5 チェックボックス.....	7
1.3.6 ラジオボタン.....	7
1.3.7 タブコントロール.....	7
2. インストール.....	7
2.1 デバイスドライバのインストール.....	7
2.2 アプリのインストール.....	7
2.2.1 Ini ファイルの編集.....	8
2.2.1.1 [CALL]: .....	8
2.2.1.2 [IP]:.....	8
2.2.1.3 [Port]:.....	8
2.2.1.4 [COM]:.....	9
2.2.1.5 [BPS]:.....	9
2.2.1.6 [Step]:.....	9
2.2.1.7 [Width]:.....	9
2.2.1.8 [Height]:.....	9
2.2.2 ショートカットの作成.....	9
2.3 ハードウェアの接続.....	10
3. コネクションの確立.....	10
3.1 コネクションの解放.....	12
3.2 電源スイッチの操作.....	12
4. 使用方法.....	12
4.1 画面の表示および操作.....	12
4.1.1 VFO-A の操作.....	13
4.1.2 VFO-B の操作.....	13
4.1.3 VFO の切替等.....	13
4.1.4 クラリファイアの操作.....	14

4.1.5	スプリット運用.....	14
4.1.6	ブレイクイン機能・VOX 機能.....	14
4.1.7	送信(スタンバイスイッチ).....	15
4.1.8	テンポラリーメモリ機能.....	15
4.2	タブコントロール.....	16
4.2.1	Monitor タブ.....	16
4.2.2	Others タブ.....	17
4.2.3	各種パラメータの調整.....	17
4.2.4	バンドスイッチ.....	17
4.2.5	メータ.....	18
4.2.6	直接周波数入力.....	18
4.2.7	メッセージキーヤー・ボイスメモリ再生.....	18
4.3	メニュー.....	18
4.3.1	File.....	18
4.3.1.1	Load.....	18
4.3.1.2	Save.....	19
4.3.1.2.1	IniFile.....	19
4.3.1.2.2	FreqBook.....	19
4.3.1.3	Exit.....	19
4.3.2	Book.....	20
4.3.2.1	Append.....	20
4.3.2.2	Edit.....	20
4.3.2.3	select.....	21
4.3.3	Config.....	21
4.3.3.1	Resize.....	21
4.3.4	Band.....	21
4.3.4.1	select.....	21
4.3.5	Sync.....	22
4.3.6	Help.....	22
4.3.6.1	About.....	22
4.3.6.2	ReadMe.txt.....	22
4.3.6.3	History.txt.....	22
4.3.6.4	RFP991Manual.pdf.....	22
5.	その他.....	22
5.1	周波数帳について.....	22

# 1. はじめに

RFP991 は、Windows10 で動作するアプリケーションプログラムです。（他の Windows でも動作するかもしれませんが、試していません。）

RFP991 は、YAESU FT-991/991A シリーズトランシーバと接続して、パソコンで周波数ダイヤルや AF ボリューム等の操作をすることができます。FT-991/991A のダイヤルやツマミ類は限られているので多少操作が複雑な面がありますが、RFP991 を使えば、直観的なユーザインタフェースなので操作性が向上します。

## 1.1 特徴

RFP991 は次のような特徴を持っています。

- 1) ユーザフレンドリーなグラフィカルインタフェースを持っているので、誰でも簡単に操作できる。
- 2) パソコンと FT-991/991A との間は USB ケーブルを接続するだけでよい。
- 3) 用途やシーンに応じて、画面のサイズを Compact, Medium, Large の 3 つから選択できる。
- 4) ユーザが定義した周波数帳を使うことができる。周波数帳には、モードやスケルチレベル、バンド幅、AGC の設定、プリアンプの選択などを記録することができる。周波数帳の用途としては、中波・短波放送局のリストや JT65 の QRG リスト等を想定しました。
- 5) 受信中の周波数やモードを記憶したり、呼出したりすることができる。これは、FT-991/991A の機能を利用したものではなく、RFP991 独自の機能です。
- 6) RFP991 は、Visual Studio Community 2015 を用いて、Visual Basic で記述されています。作者はコピーライトを棚上げし、オープンソース、コピーフリーとします。

(注) コピーフリーとしますが、悪意のある第三者によるコンピュータウイルスの混入などの心配があるので、入手元について十分吟味してください。作者は権利を主張しませんが、責任も一切負いませんので悪しからずご了承ください。

RFP991 は、筆者のホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.namva.net/program/program.html>

## 1.2 できないこと

RFP991 は FT-991/991A シリーズの CAT コマンドを用いてパソコンと通信しているに過ぎません。そのため、CAT コマンドが用意されていない機能や、CAT コマンドがあっても RFP991 がサポートしていない機能は使えません。

### 1.2.1 バンドスコープ機能

バンドスコープ機能は、CAT コマンドが用意されていないので、RFP991 ではサポートしません。

### 1.2.2 音声信号の入出力

FT-991/991A は、USB 接続でアナログ信号（音声入力・音声出力）の入出力機能を備えています。RFP991 ではサポートしていません。

FT-991/991A の音声入出力機能を利用する他のアプリで、PSK, RTTY, SSTV, JT などの通信を行うことができます。

### 1.2.3 その他

RFP991 でサポートしてる機能は、FT-991/991A の CAT コマンドの一部を用いて実現しているものであり、CAT コマンドを網羅的にサポートしているものではありません。

作者は U/VHF 帯の運用経験が浅いので、FT-991/991A の持つ多彩なメモリ機能やプログラムスキャン機能について、殆ど理解していないので、これらの機能は全くサポートできていません。

どのコマンドをサポートするのかは、作者の独断で選定させていただきましたので、悪しからずご了承ください。

## 1.3 用語の説明

操作方法を説明する上で、画面上に配置された部品の呼称や特性について理解を深めて頂くために、まず RFP991 で使われている部品について説明します。

### 1.3.1 ボタン

無線機の押し釦スイッチを押すように、マウスカーソルを合わせて左ボタンをシングルクリックします。RFP991 には右ボタンやダブルクリックをサポートしているボタンはありません。

キーボードの TAB キーを押して、ボタンやテキストボックスを順次選択することができますが、RFP991 には選択可能なボタン類が多過ぎるので、このような方法はお勧めしません。但し、左右に隣合ったテキストボックスとボタンの移動には TAB キーを使うことが有効です。

### 1.3.2 テキストボックス

背景が白で、右端に何も無い四角の箱はテキストボックスと呼ばれるものです。数字や文字を入力または表示するために使用されます。

### 1.3.3 コンボボックス

背景が白で、右端に V 印のある四角の箱はコンボボックスです。コンボボックスはテキストボックスのようなものですが、V の部分を左クリックするとプルダウンメニューが表示されて、選択肢が表示されます。表示された選択肢を左クリックすると、元の四角い箱に選択された内容が表示されます。

### 1.3.4 数値アップダウンコントロール

右端に上向きと下向きの三角マークのある四角の箱は数値アップダウンコントロールです。RFP991 では、周波数ダイヤルや AF ゲインなど連続に数値を変化させるパラメータを設定する用途に多用しています。

四角の箱には数値が表示されます。数値が表示されている部分にマウスカーソルを合わせて、マウスホイールを回せば数値が変化します。マウスホイールの回転方向によって数値が増えたり減ったりします。マウスホイールの操作では数値が大きく変化します。数値を 1 ずつ増減したい時には、マウスカーソルを上向きまたは下向きの三角マークに合わせて、左クリックします。

### 1.3.5 チェックボックス

小さな真四角の箱はチェックボックスと呼ばれるものです。その名の通り、チェックを付けたり外したりします。マウスカーソルを合わせて、右ボタンをクリックすると、トグル動作でチェックを付けたり外したりすることができます。

### 1.3.6 ラジオボタン

小さな○はラジオボタンと呼ばれるものです。ラジオボタンは、いくつかの選択肢の内から一つを選択するためのものです。選択された項目は、○の中に小さな黒丸が表示されます。

### 1.3.7 タブコントロール

タブコントロールは、EXCEL や CALC などの表計算ソフトで用いられているのでご存知の方も多いと思いますが、画面の一部の内容を切り替えるものです。

## 2. インストール

### 2.1 デバイスドライバのインストール

FT-991/991A とパソコンの間を USB ケーブルで最初に接続する前に、YAESU のホームページから仮想 COM ポートドライバーをダウンロードします。

同ドライバーのインストールマニュアルも併せてダウンロードし、その内容に従ってドライバーをインストールして下さい。

既に FT-991/991A 用仮想 COM ポートドライバーがインストールされている場合は、この作業をスキップして下さい。

### 2.2 アプリのインストール

RFP991 は ZIP ファイルのパッケージで提供します。通常、RFP991 の ZIP ファイル名は RFP991.zip です。ZIP ファイルをダウンロードしたら、ZIP ファイルのまま、History.txt を開いてバージョンを確認してください。

次に、ZIP ファイルを「すべて展開」します。展開したフォルダーを任意の場所に移動します。

## 2.2.1 Ini ファイルの編集

フォルダーの中に RFP991.ini というファイルがあるので、これをメモ帳や TeraPad などのテキストエディタで開きます。以下に Ini ファイルの例を示します。

```
#RFP991 init file saved on 2017/01/23 19:37:56
[CALL]:JH4ADK
[IP]:192.168.0.39
[Port]:54321
[COM]:COM4
[BPS]:38400
[Step]:100Hz
[Width]:710
[Height]:514
```

各行は次のような意味があります。

### 2.2.1.1 [CALL]:

画面の上に表示される文字列を指定します。作者はコールサインを表示することを意図しましたが、何でも構いません。

### 2.2.1.2 [IP]:

起動時に IP アドレステキストボックスに表示される IP アドレスを指定します。

シリアルポートだけで運用する場合には、この行を削除するか、[IP]:よりも右側を空白にしても構いません。

### 2.2.1.3 [Port]:

起動時にポートアドレステキストボックスに表示される TCP ポート番号を指定します。

シリアルポートだけで運用する場合には、この行を削除するか、[Port]:よりも右側を空白にしても構いません。

#### **2.2.1.4 [COM]:**

起動時に COM ポートテキストボックスに表示される COM ポートの番号を指定します。

#### **2.2.1.5 [BPS]:**

起動時にボーレートテキストボックスに表示されるボーレートの値を指定します。

#### **2.2.1.6 [Step]:**

起動時に Step コンボボックス表示される周波数ダイヤル (VFO-A/B)のステップの値を指定します。1Hz, 10Hz, 100Hz, 1kHz, 10kHz, 100kHz, 1MHz, 10MHz のいずれかを「Hz」まで含めて記述して下さい。

#### **2.2.1.7 [Width]:**

起動時に表示される画面の幅をドット数で指定します。画面の大きさは起動後に変更することができるので、最初に編集する必要はありません。

#### **2.2.1.8 [Height]:**

起動時に表示される画面の高さをドット数で指定します。画面の大きさは起動後に変更することができるので、最初に編集する必要はありません。

### **2.2.2 ショートカットの作成**

お好みに応じて、デスクトップにショートカットを作成します。

## 2.3 ハードウェアの接続

FT-991/991A とパソコンの間は、1本のUSBケーブルで接続します。

(注) USBケーブルを接続する前に、2.1章で説明した「仮想COMポートドライバ」をインストールして下さい。

## 3. コネクションの確立

RFP991 を起動すると、次のような画面が表示されます。画面のサイズが異なるかもしれませんが、ここでは気にしないで下さい。図にはCompatサイズの画面を例示しています。

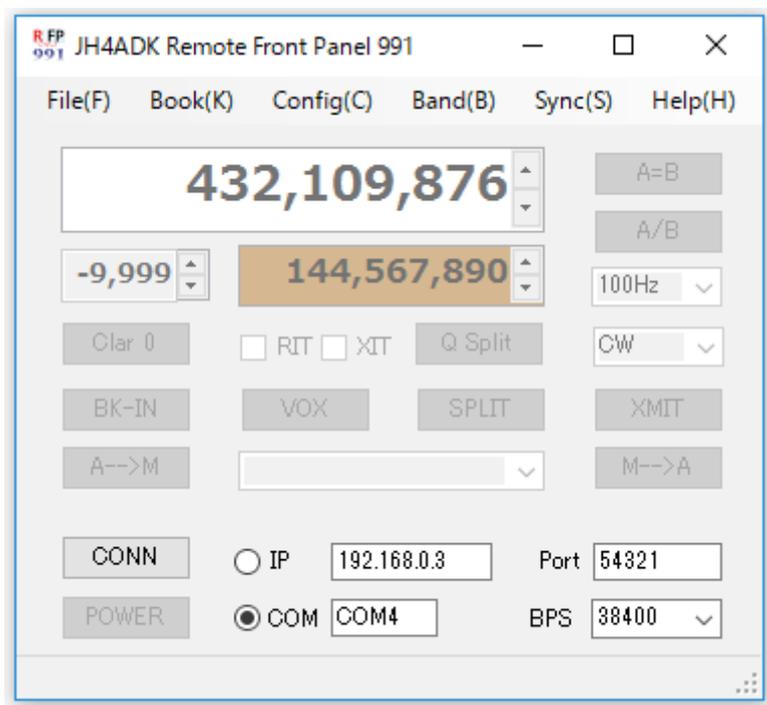


図 3.1 起動直後の表示例

コネクションの確立とは聞きなれない言葉だと思いますが、RFP991 と FT-991/991A との間でちゃんと通信できるように設定するという意味です。

RFP991 は IP と COM ポートの2つの通信方法をサポートしています。まず、どちらの通信方法を使うのかを IP ラジオボタンまたは COM ラジオボタンで選択します。(一般的には COM ポートが使われると思います。)

COM ラジオボタンを選択した場合、右側のCOMポートテキストボックスとボーレートテキストボックスが正しく設定されていることを確認してください。正しくない場合には、キーボードから直接入力することができます。

IP ラジオボタンを選択した場合、右側のIPアドレステキストボックスとポート番号テキストボックスが正しく設定されていることを確認してください。正しくない場合には、キーボードから直接入力することができます。

CONN ボタンを右クリックすると、接続の確立を開始します。正常に接続が確立されたら、CONN ボタンの色が緑色に変化し、表示がDISCになります。その後、画面全体のボタンの色に変化して、操作できるようになります。（接続が確立するまで、各種ボタンや数値アップダウンコントロールを操作することはできません。）

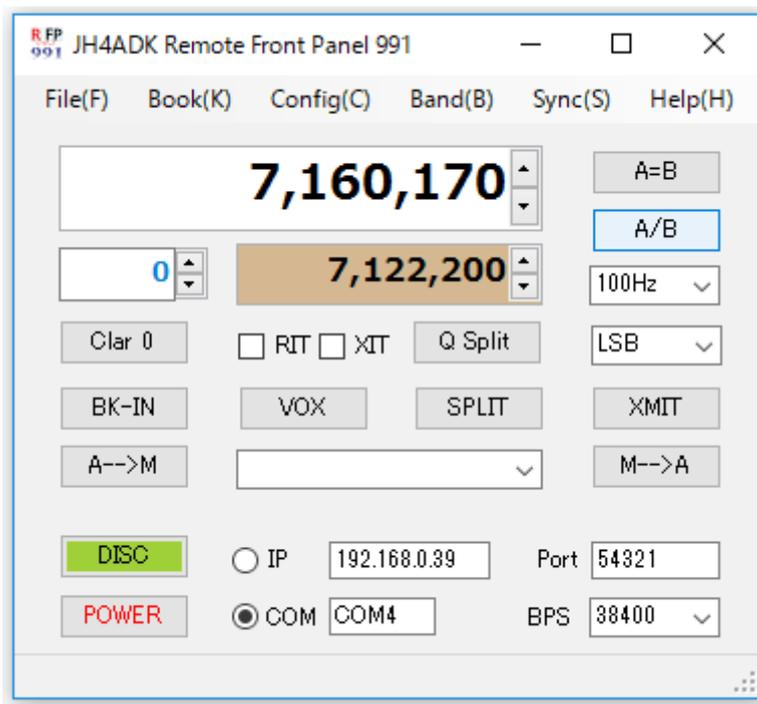


図 3.2 コネクション確立後の表示例

COMポート番号やIPアドレス等が誤っている場合、接続の確立に失敗してエラーメッセージが表示されることがあります。正しい値に、設定してもう一度、CONN ボタンを右クリックして下さい。

### 3.1 コネクションの解放

コネクションが確立している時は、コネクションボタンの色が緑色で DISC と表示されています。この時に、コネクションボタンを右クリックするとすと、コネクションを解放することができます。

例えば、COMポートを使用している場合には、コネクションを解放することにより、他のアプリから同じCOMポートを使用することができるようになります。通常、一つのCOMポートは一つのアプリからしか使用できません。

### 3.2 電源スイッチの操作

POWER ボタンを右クリックすることで、FT-991/991A の電源を ON/OFF することができます。

電源が ON の場合は POWER ボタンの文字が赤色に、電源が OFF の場合は POWER ボタンの文字の色が黒色に表示されます。

起動直後は、FT-991/991A の状態が正しく表示されないことがありますので、コネクションを確立後、Sync(S)メニューをクリックして同期させると良いでしょう。

## 4. 使用方法

### 4.1 画面の表示および操作

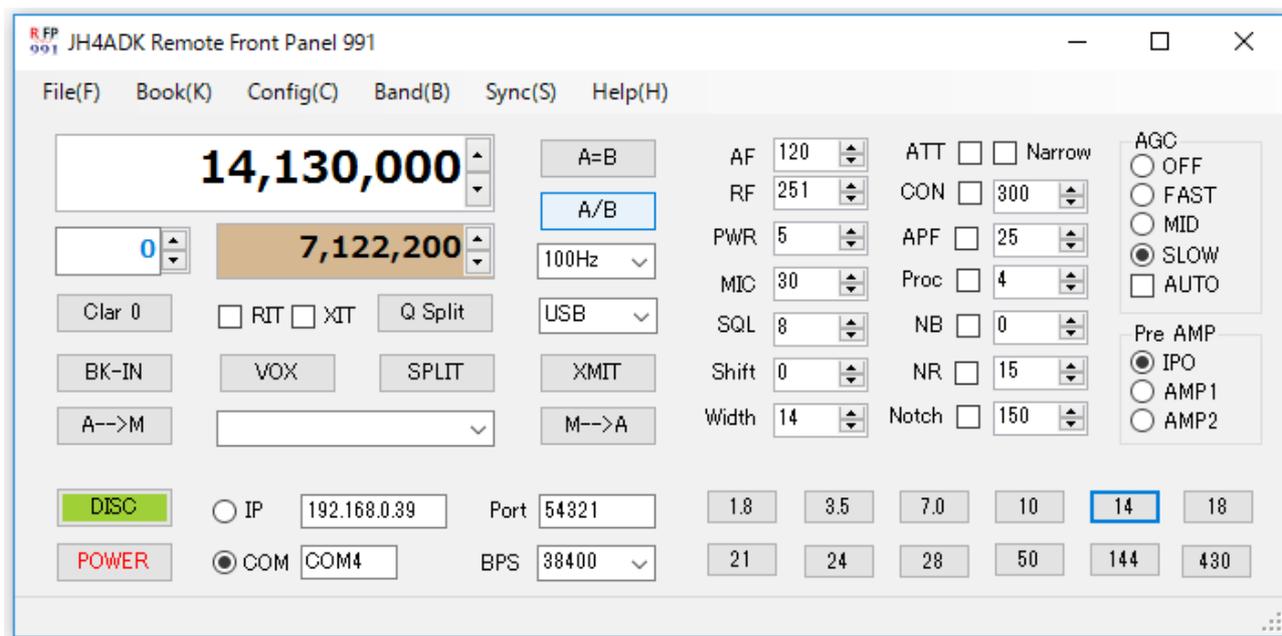


図 4.1 Medium サイズの表示例

## 4.1.1 VFO-A の操作

VFO-A の操作をするには、画面左上の大きな数値アップダウンコントロールを使用します。この値を変化させたときに、FT-991/991A の周波数が追従すれば正常に動作しています。VFO-A 用の数値アップダウンコントロールは周波数の数値を表しています。

変化させることのできる周波数の最小単位を、Step コンボボックスで選択することができます。Step コンボボックスの設定は VFO-B と共通です。

## 4.1.2 VFO-B の操作

VFO-B の操作をするには、VFO-A の下にある小さな数値アップダウンコントロールを使用します。

## 4.1.3 VFO の切替等

A=B ボタンを右クリックすると、VFO-A の値が VFO-B にコピーされます。

A/B ボタンを左クリックすると、VFO-A の値と VFO-B の値が交換されます。

#### 4.1.4 クラリファイアの操作

周波数差テキストボックスには、直接周波数差を Hz 単位で入力することができます。入力可能な範囲は-9999 から 9999 までです。外観は数値アップダウンコントロールに似ていますが、テキストボックスなのでマウスカーソルを合わせてホイールを回しても数値を増減することはできません。右端の上下三角印は数値アップダウンコントロールなので、マウスカーソルを合わせて、右クリックすれば 1Hz 単位で周波数差を増減することができます。

Clar 0 ボタンを右クリックすると、周波数差テキストボックスに表示されている値がゼロにクリアされます。

RIT チェックボックスを押すと、実際の受信周波数は、VFO-A の表示されている値に周波数差テキストボックスに表示されている値を加えた周波数になります。

XIT チェックボックスを押すと、実際の送信周波数は、VFO-A の表示されている値に周波数差テキストボックスに表示されている値を加えた周波数になります。

(注) RIT, XIT を両方とも使用するには「040 CLAR MODE SELECT」を TRX に設定します。

#### 4.1.5 スプリット運用

Q Split ボタンを押すと、VFO-A の周波数に FT-991/991A 側の「035 Q SPLIT FREQ」で設定されたオフセット分が加算された値が VFO-B に転送されて、スプリットモードになります。スプリットモードになると、SPLIT ボタンの文字の色が赤色に変化します。

SPLIT モードを解除するには、SPLIT ボタンを右クリックします。すると、SPLIT ボタンの文字の色が黒に変化します。

SPLIT ボタンの文字の色が黒の時（非スプリットモードの時）、SPLIT ボタンを押すとスプリットモードになり、SPLIT ボタンの文字の色が赤色に変化します。

#### 4.1.6 ブレークイン機能・VOX 機能

BK-IN ボタンを右クリックすると、ブレークイン機能を ON にします。ブレークイン機能が ON の間、BK-IN ボタンの文字の色が赤色になります。この時、BK-IN ボタンを右ク

リックするとブレークイン機能が OFF になり、BK-IN ボタンの文字の色が黒色になります。

VOX ボタンを右クリックすると、VOX 機能を ON にします。VOX 機能が ON の間、VOX ボタンの文字の色が赤色になります。この時、VOX ボタンを右クリックすると VOX 機能が OFF になり、VOX ボタンの文字の色が黒色になります。

#### 4.1.7 送信(スタンバイスイッチ)

XMIT ボタンを押すと送信状態になり、XMIT ボタンの文字の色が赤色に変化します。送信状態の時に、XMIT ボタンを押すと受信状態になり、XMIT ボタンの色が黒色に変化します。

この機能は CAT コマンドの中の MOX というコマンドを用いているので、「110 SSB PTT SELECT」などの設定とは独立しています。

#### 4.1.8 テンポラリーメモリ機能

ハムバンドをワッチしていると、「この局とは後で QSO しようかなあ・・・」とか、「もう少し信号が強くなってから呼びたいので、周波数をメモしておきたいなあ・・・」と思うことがあります。そんな要求を叶えるために、テンポラリーメモリ機能を装備しました。この機能は作者独自の実装なので、FT-991/991A とは無関係です。

A->M ボタンを左クリックすると、VFO-A の周波数と現在のモードがテンポラリーメモリコンボボックスに追記されます。

テンポラリーメモリコンボボックスから周波数を選択して、M->A ボタンを左クリックすると、VFO-A にその周波数がセットされモードが変更されます。

テンポラリーメモリコンボボックスには、沢山の周波数を記憶することができますが、あまり多過ぎると選択する時に困ります。実用上は 10 程度に留めた方が良いでしょう。

テンポラリーメモリコンボボックスを右クリックすると、表示されている周波数データが削除されます。

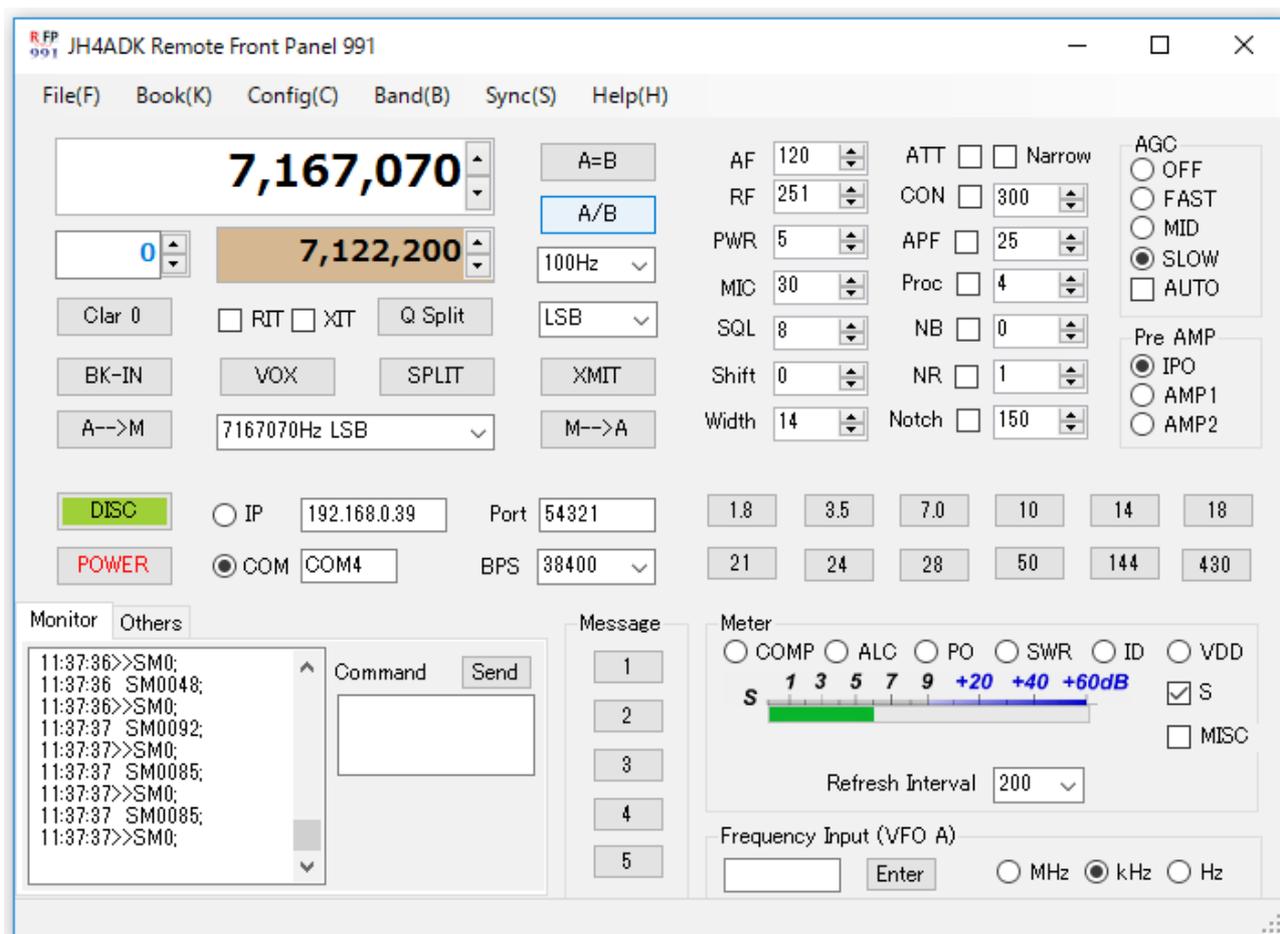


図 4.2 Large サイズの表示例

## 4.2 タブコントロール

RFP991 には、Monitor と Others の 2 つのタブコントロールがあります。

### 4.2.1 Monitor タブ

Monitor タブは、もともとデバッグのために設けた機能で、FT-991/991A との通信状況を監視したり、手入力でコマンドを与えることができます。

Monitor タブの左半分のテキストボックスには、パソコンから FT-991/991A に与えたコマンドと、FT-991/991A から返されたレスポンスが、時刻と共に表示されます。パソコンから与えたコマンドには、時刻とコマンドの間に「>>」が表示されます。

FT-991/991A からのレスポンスとして、たまに「?;」と表示されることがあります。このような場合には、先に送ったコマンドを FT-991/991A が、何らかの事情で正しく認識できなかったと解釈できます。

Monitor タブの右半分には、コマンドテキストボックスと Send ボタンが配置されています。

コマンドテキストボックスに CAT コマンドを入力して、Send ボタンを左クリックすれば任意の CAT コマンドを発行することができます。コマンドテキストボックスには、コマンドの最後を意味する「;」（セミコロン）も忘れずに入力してください。

## 4.2.2 Others タブ

Others タブの中には、いくつかのボタンや数値アップダウンコントロールなどがあります。

Key Speed 数値アップダウンコントロールを操作することで、CW の速度を調整することができます。

Z-in ボタンを左クリックすると、FT-991/991A のゼロイン機能が働いて、周波数を微調整します。

Auto Notch チェックボックスにチェックを入れると、Auto Notch 機能が ON になります。STOP ボタンを押すと、ボイスメモリの再生を中止することができます。

## 4.2.3 各種パラメータの調整

画面の右上の部分に、各種パラメータを調整するための数値アップダウンコントロールやチェックボックス、ラジオボタン等が並んでいます。

機能は見た通りですので、説明は割愛します。

## 4.2.4 バンドスイッチ

1.8MHz z から 430MHz z に対応して、12 個のバンド切替用のボタンが並んでいます。これらのボタンを左クリックすると、バンドが切り替わります。同じバンドスイッチを連続して左クリックすると、FT-991/991A のバンドスタッキング機能が動作するので、1 つのバンドあたり 3 つの周波数とモードの組合せが順次切替えられます。

## 4.2.5 メータ

Sメータやパワーメータなどを表示することができます。起動時にはSメータもその他のメータもOFF状態になっています。表示させるにはSおよびMISCチェックボックスをチェック状態にします。MISC (Sメータ以外の送信時に使うメータ) をチェック状態にしたら、6つのラジオボタンのいずれか一つを選択します。

Refresh Interval コンボボックスで指定した時間間隔 (単位は ms) で、メータの読み (指示値) を FT-991/FT-991A に問合わせます。

## 4.2.6 直接周波数入力

キーボードから Frequency Input テキストボックスに直接周波数を入力して、Enter ボタンを左クリックすると、VFO-A に周波数がセットされます。周波数の単位を3つのラジオボタンで選択することができます。周波数は、整数形式または小数点形式で表現することができます。(例: 7100 kHz 7.1 MHz)

## 4.2.7 メッセージキーヤー・ボイスメモリ再生

メータの左側に5つのボタンが縦に並んでいます。これらのボタンはCWメッセージキーヤーに対応しています。

CW以外のモードで運用中の場合には、これらのボタンを押すとボイスメモリを再生します。Others タブのSTOP ボタンを押せば、ボイスメモリの再生を途中で停止することができます。

## 4.3 メニュー

### 4.3.1 File

#### 4.3.1.1 Load

周波数帳をロードすることができます。FreqBook を左クリックすると、ファイル選択ダイアログが開くので、読み込みたい周波数帳 (拡張子が csv または txt の CSV 形式のテキストファイル) を選択します。

## **4.3.1.2 Save**

### **4.3.1.2.1 IniFile**

IniFile を選択すると、現在設定されている COM ポートや IP アドレスなどを Ini ファイルに書込みます。Ini ファイルは、exe ファイルと同じフォルダーに RFP991.ini というファイル名で格納されます。次回起動時には、Ini ファイルの内容が自動的にロードされます。

### **4.3.1.2.2 FreqBook**

周波数テーブルを周波数帳をセーブするための画面が開きます。周波数帳は、任意のフォルダーに任意のファイル名で格納することができます。ただし、拡張子は.csv になります。

### **4.3.1.3 Exit**

本アプリを終了します。

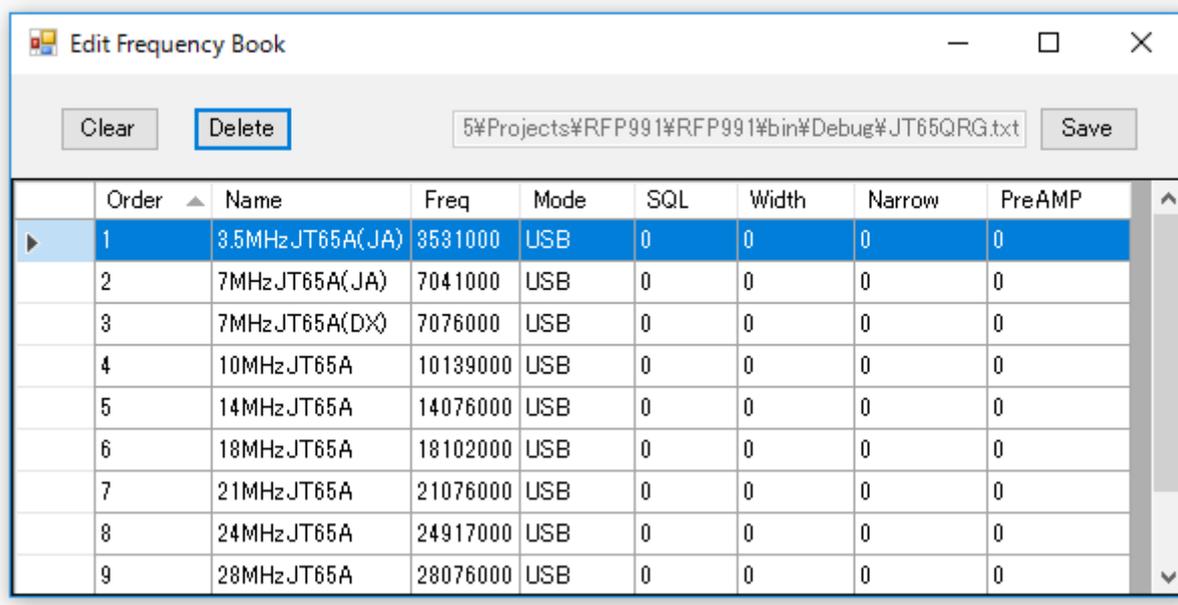
## 4.3.2 Book

### 4.3.2.1 Append

現在の VFO-A の周波数やモードなどを周波数テーブルに追加します。

### 4.3.2.2 Edit

Edit メニューを左クリックすると、周波数テーブルを編集するための画面が開きます。



Order	Name	Freq	Mode	SQL	Width	Narrow	PreAMP
1	3.5MHzJT65A(JA)	3531000	USB	0	0	0	0
2	7MHzJT65A(JA)	7041000	USB	0	0	0	0
3	7MHzJT65A(DX)	7076000	USB	0	0	0	0
4	10MHzJT65A	10139000	USB	0	0	0	0
5	14MHzJT65A	14076000	USB	0	0	0	0
6	18MHzJT65A	18102000	USB	0	0	0	0
7	21MHzJT65A	21076000	USB	0	0	0	0
8	24MHzJT65A	24917000	USB	0	0	0	0
9	28MHzJT65A	28076000	USB	0	0	0	0

図 4.3 周波数テーブルの表示例

Clear ボタンを左クリックすると、周波数テーブル全体をクリアします。

行の左端にマウスカーソルを合わせて Delete ボタンを押すと、その行を削除することができます。

Save ボタンを左クリックすると、周波数テーブルの内容を周波数帳に書き戻します。但し、起動後に周波数帳がロードされた場合に限りです。ロードされている周波数帳のファイル名が Save ボタンの左のテキストボックスに表示されます。

Order や Name の項目にマウスカーソルを合わせて、キーボードから編集することができます。

Name は、周波数の数値に名称を加えることにより情報を補完する役割を果たします。

周波数テーブルのカラム名（Order や Name、Freq など）を左クリックすると、テーブルをソートすることができます。

Order というカラムは、ソート機能により周波数テーブルの順序を入れ替えやすくするために設けています。

Freq や Mode 他の項目を編集することは可能ですが、お勧めしません。編集により、FT-991/991A に設定不能な値になってしまう可能性があるからです。

### 4.3.2.3 select

Book メニューの 3 番目の項目は Select コンボボックスです。このコンボボックスに周波数テーブルの内容が表示されるので、その中から周波数または名称を選択すると、VFO-A に設定されます。同時に、モードやその他の周波数テーブルに記載されているパラメータが FT-991/991A に設定されます。

Select コンボボックスの項目名として、周波数テーブルの Name が空欄の場合には周波数が表示され、そうでなければ Name が表示されます。

## 4.3.3 Config

### 4.3.3.1 Resize

画面の大きさを Compact, Medium, Large の中から選択することができます。

画面のサイズは、必要に応じて任意の大きさに変更することができます。画面のサイズは Ini ファイルに格納することができるので、次回起動時には設定した画面サイズで 사용할ことができます。

## 4.3.4 Band

### 4.3.4.1 select

select コンボボックスからバンドを選択して周波数等を切替えることができます。

MW(中波) や AIR (エアーバンド) を選択することもできます。但し、バンドスイッチとは異なり、バンドスタッキング機能を利用することはできません。

## 4.3.5 Sync

Sync メニューを左クリックすると、FT-991/991A の設定状況を問合わせて画面の表示内容を更新します。

RFP991 を使用している時に、本体のダイヤルやボタンを操作すると、画面の表示内容と FT-991/991A の設定とは整合しなくなりますので、このような時にも役に立ちます。

## 4.3.6 Help

### 4.3.6.1 About

バージョン情報を表示します。

### 4.3.6.2 ReadMe.txt

インストール方法を表示します。

### 4.3.6.3 History.txt

更新情報を表示します。

### 4.3.6.4 RFP991Manual.pdf

マニュアルを表示します。

## 5. その他

### 5.1 周波数帳について

周波数帳は、CSV 形式のテキストファイルなので、メモ帳や TeraPad で編集することができます。拡張子は、txt または csv です。

周波数帳の例を以下に示します。

```
"Order", "Name", "Freq", "Mode", "SQL", "Width", "Narrow", "PreAMP"
```

```
"01", "7MHzJT65A (JA) ", "7041000", "USB", "0", "0", "0", "0"  
"02", "7MHzJT65A (DX) ", "7076000", "USB", "0", "0", "0", "0"  
"03", "14MHzJT65A", "14076000", "USB", "0", "0", "0", "0"  
"04", "18MHzJT65A", "18102000", "USB", "0", "0", "0", "0"  
"05", "21MHzJT65A", "21076000", "USB", "0", "0", "0", "0"  
"06", "24MHzJT65A", "24917000", "USB", "0", "0", "0", "0"  
"07", "28MHzJT65A", "28076000", "USB", "0", "0", "0", "0"
```

一行目にはカラム名が列記されており、2行目からがデータです。

Order は、周波数帳コンボボックスに表示する順序を決めるものです。内部的には文字列として表現されていますので、希望する順序にソートさせるには、01, 02, 03・・・のように先頭にゼロを付けて、2桁で表現した方が良いでしょう。

Name は、当該周波数の意味やコールサイン、放送局名などに使用します。

Freq は周波数（単位は Hz）、Mode はモード（文字列）、SQL はスケルチのレベル（0～100）、Width は帯域幅を示す数値（0～21）、Narrow は狭帯域か否かを示す 0（OFF）または 1（ON）の値、PreAMP はどのプリアンプが選択されているのかを示す値（0～2）です。

周波数帳コンボボックスには、Name または周波数が表示されます。Name が空欄の場合には周波数が表示され、それ以外は Name が表示されます。

Mode の文字列は、次の内のいずれかでなければなりません。

```
"LSB", "USB", "CW", "FM", "AM", "RTTY-L", "CW-R", "DATA-L", "RTTY-U", "DATA-FM",  
"FM-N", "DATA-USB", "AM-N", "C4FM"
```